

# 幼稚園での学びは

毎年、下京雅小学校と楊梅幼稚園では夏季休業中に教員全員で合同研修会を行っています。

8月20日に合同研修会を行いました。今回の合同研修会のうち、幼小接続研修会での協議のねらいは、幼稚園での学びが小学校にもつながっていることや小学校では幼稚園での育ちや学びを大事にして教育を継続することを確認し合うことです。下京雅小学校の先生たちと楊梅幼稚園の先生たちがグループに分かれて少人数で幼稚園での子どもの遊びで見られる『幼児期の終わりまでに育ってほしい姿』(※)をテーマに話し合いました。

実際の子どもたちが遊んでいる写真(5歳児の宇宙ごっこや織姫ショー、扇子づくり)をもとに、『幼稚園の終わりまでに育ってほしい姿』のどれが見られるのかについて検討しました。

※『幼児期の終わりまでに育ってほしい姿』

- 健康な心と体 ●自立心 ●道徳性・規範意識の芽生え ●協同性 ●社会生活との関わり ●思考力の芽生え ●自然との関わり・生命尊重 ●数量・図形・標識や文字などへの関心・感覚 ●言葉による伝え合い ●豊かな感性と表現

幼稚園ではただ遊んでいるように見えますが、そこには先生が子どもの興味や関心につながる生活や遊びが展開できるように環境を整えたり、関わったりすることが土台となります。小学校のような教科書があるのではなく、あくまで子どもたちの興味や関心をもとに材料や用具、遊具などを準備し、配置した環境をつくっています。そこで子どもたちが自分の思いや考えを出して主体的に生活や遊びを展開していきます。その様子を見守ったり、援助をしたりしながら先生は子どもの学びを確認し、支援していきます。そういった営みの中で、子どもたちに『幼児期の終わりまでに育ってほしい姿』が見られます。

合同研修会で、小学校の先生が「この子どもは相手の気持ちや思いを考えて話しかけているので、ただ、言葉による伝え合いだけではなく、思考力の芽生えも見られますね」と発言されていました。子どもの姿をじっくり見ていくと学びを深く捉えることができます。また、「同じ写真を見ていても先生によって、違う姿を見つけてられることがわかり、この研修が新鮮だった」という感想も伺いました。

また、「この『幼児期の終わりまでに育ってほしい姿』はねらいとして考えるのですか?」という質問もありました。幼稚園では、健康、人間関係、環境、言葉、表現という5領域のねらいをもって保育しています。小学校と円滑に接続できるようそして、小学校の先生が『幼児期の終わりまでに育ってほしい姿』を踏まえた指導がおこなわれるようになると就学前施設すべて(幼稚園、保育園(所)、こども園)に明示されました。

1学期の5歳児の遊びのひとこまからの研修でしたが、今後とも子どもたちが幼稚園での学びを小学校に活かし、成長していくことを願い、小学校と幼稚園の先生同士での学びも深めていきたいと考えています。

